

TCS

TATA CONSULTANCY SERVICES



2020 年 全日本スーパーフォーミュラ選手権 第 3 戦: スポーツランド SUGO (宮城県柴田郡村田町) レース報告書

予選: 10 月 18 日(日)

天候	晴れ時々曇り	
観客動員数	4,200 人	
成績	牧野 任祐 選手(#64):	12 位
	大湯都史樹 選手(#65):	19 位

決勝: 10 月 18 日(日)

天候	晴れ時々曇り	
観客動員数	4,200 人	
成績	牧野 任祐 選手(#64):	7 位
	大湯都史樹 選手(#65):	12 位

スタート直後のアクシデントによって残念な結果で終わった第 2 戦から 3 週間が経過しました。舞台をスポーツランド SUGO に移して臨む第 3 戦は、土曜日に設けられた計 2 時間の練習走行ではほぼウエットコンディションでしたが、日曜日は好天に恵まれたことによって、前日とは異なるコンディションで公式予選を迎えます。

<公式予選>

Q1 に A グループで出走した牧野選手はギリギリの 7 番手タイムで突破します。一方 B グループから出走した大湯選手は、牧野選手に続き、Q2 進出を果たしたところでしたが、アタック中に「SP コーナー」でクラッシュを喫し、赤旗が掲示されます。公式規則により、赤旗掲示の原因を車両としてタイム抹消のペナルティーの裁定を受け、結果は 19 番手。Q2 に進出した牧野選手は、Q3 進出を果たせず、12 番手で予選を終えました。

<決勝レース>

午後に行われる決勝レースまでの短時間で 65 号車の修復を完了し、TCS NAKAJIMA RACING は 2 台揃ってウォームアップ走行を終え、53 週の決勝レースに臨みます。

12 番手からスタートを切った牧野選手はオープニングラップでポジションを落としてしまったものの、少しずつポジションを回復しながら周回し、セルジオ・セッテ・カマラ選手 (Buzz Racing with B-Max) のアクシデントによってセーフティーカーが導入された 20 周目でピットイン。タイヤ交換義務完了し、コースに復帰します。全車がタイヤ交換義務を完了した頃には 7 番手に浮上します。

一方、グリッド最後尾の 19 番手からスタートした大湯選手は 10 周目でタイヤ交換し、挽回を狙います。多くのマシンがピットインを終えた時点でのポジションは 15 番手。27 周を終えるとセーフティーカーがピットに戻り、レースが再開します。大湯選手は残り 10 周までに 12 番手に浮上、もう少しでポイント獲得のポジションが目前に迫るなか、前車に詰め寄りましたが、そのまま 12 位でチェッカーとなりました。

7 番手を走っていた牧野選手はレース再開後もポジションを守り、7 位フィニッシュで 4 ポイントを獲得しました。

<コメント>

中嶋 悟 総監督:

「2 人とも粘り強いレースができました。これを機に予選から一段上に上がらなければ、さらに上位を目指せないとしますので、さらなる上位を目指して準備していきます。今大会もたくさんのご声援をいただき、どうもありがとうございました」

牧野 任祐 選手:

「今週末は走り出しのコンディションが悪く、午前の練習走行はウエットで、午後はドライになりましたが、予選セッションが赤旗で終了になってしまったことで新品タイヤを履いての最終チェックができずに予選・決勝に臨むことになりました。調子は悪くないと思っていたのですが、日曜日のコースコンディションにうまく合わせられませんでした。予選のアタックはうまくいきましたが、ピットに戻ってみると思ったほどいいタイムが出ておらず苦しい状況でした。決勝でも状況は大きく変わりませんでした。スタート後はライバル勢に比べてウォームアップが遅く、順位が後退することになり、ペースも上がりませんでした。結果的にはセーフティーカーのタイミングもうまく使い、7 位でポイントも獲得できました。ようやくポイントを獲得できたことはよかったです。シリーズ後半に向けて、さらにレベルアップできるよう、じっくりと考え、取り組んでいきます」

大湯 都史樹 選手:

「今回は、何よりもアクシデントなどなくレースウィークを終えたいと思って SUGO に来ましたが、予選では欲が出て、行き過ぎてしまいました。アタック 1 周目でのタイムがあまり芳しくなく、Q1 突破さえ難しいかもしれないと感じて無理をした結果、ミスによってコースアウトしてしまいました。車を壊してしまい、チームのメンバーに申し訳ありませんでした。決勝レースでは無事にピットに帰ることを第一の目標にして、攻めつつも無理はしない走りに努めました。レース中は小林可夢偉選手 (carrozzeria Team KCMG) をオーバーテイクすることもできましたし、関口雄飛選手 (ITOCHU ENEX TEAM IMPUL) には、もう少しで届くところまで迫ることができた点はよかったです。とにかく、完走できたことに安堵しました。しかし、あともう少しのところまでポイント獲得に届かなかったことは残念です。だからこそ予選でのミスがたいへん悔やまれます。今まで SUPER FORMULA のマシンの限界点がどのあたりにあるのかが見えず、無理をしすぎていた部分がありました。しかし、シリーズ前半の 3 戦を終えて、ようやくそれが見えてきました。こうした気づきや知見を今後のレースに生かしていきたいです」

以上

※ 次戦(第 4 戦)は、11 月 15 日(日)にオートポリス(大分県日田市)で行われます。